

## 回復期リハビリ病棟のご案内

当院の回復期リハ病棟では、機能回復のリハビリだけではなく、「病気があっても障害があってもその人らしく生活するためにはどうしたらよいか」に強いこだわりを持ち、多職種、他事業所と連携をしています。

医師、看護師、リハビリ、相談員、ケアマネ等の様々な視点から、病気になる前の生活にどのようにしたら戻れるか、どこまで近づることができるかを考えます。

その為、入院される際に、まずリハビリ職員が自宅訪問を行い、生活の様子を伺いながら室内等の写真を撮らせていただきます。訪問結果は、病室環境調整や訓練プログラムの作成、多職種で行うカンファレンス（話し合い）で大切な情報となります。カンファレンスは、必ず1人につき月1回行い、患者さんやご家族の思い・目標を実現できるように検討していきます。

退院後については、担当看護師が退院後訪問を行います。元の生活に戻ることができたかどうかを確認し、問題が起きていればサポートをします。入院生活だけではなく、退院後も安心して生活していただけるような取り組みを行っています。



患者さんと作品づくり



### 身体的な機能回復のリハビリだけではありません。 4つのチームで患者さん1人1人を看ています。

おいしく食べるぞ  
チーム

食器選びから歯みがきの仕方まで、“食べる”ことにこだわり、患者さんに合った食事の動線などを考えていくチームです。

排泄  
チーム

トイレの悩み（失禁、頻尿など）を受け、その人に合った排泄方法をリハ的なアプローチで考えていくチームです。

転倒転落  
チーム

早朝、夜間の転倒が多いです。患者さんにゆっくりと休んでいただく為にも、安全な環境を整え、考えていくチームです。

レク  
チーム

作品づくり、映画鑑賞、夏祭り、クリスマス会などレクリエーションを行うチームです。長期入院の方が多く、季節感を感じてもらえる企画をしています。

### — 心不全で入退院を繰り返されていた 1人暮らしのAさんの例 —

Aさんは当初、退院後は施設入所をという話で入院されてきました。心不全は、塩分制限が大事なため、味の濃い物を好まれるAさんには塩分管理をした食生活は難しいという判断からでした。

最初は減塩食を食べていただいていたのですが、『おいしく食べるぞチーム』から“Aさんがご自宅に戻られても減塩食を続けることは難しいのでは？”という意見があり、普通食に変更し、薬の量を調整することになりました。結果、薬の調整も上手くいき、Aさんも普通食が食べられるようになり喜ばれていました。

現在は、ご家族の協力もあり、診療所やデイサービスを利用されながら、1人暮らしに戻られています。



ティータイムの時間もリハビリの1つとして設けています。少しでも動いていただく為に、食堂から部屋の歩行距離を考え、部屋の場所を変更することもあります。メニューはお茶やコーヒーなどを用意しています。